

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
2.5 汚染水処理設備等 2.5.1 基本設計 （中略） 2.5.1.5 主要な機器 2.5.1.5.1 汚染水処理設備，貯留設備（タンク等）及び関連設備（移送配管，移送ポンプ等） （中略） (1) 滞留水移送装置 滞留水移送装置は，タービン建屋等にある滞留水を汚染水処理設備のあるプロセス主建屋，高温焼却炉建屋へ移送することを目的に，移送ポンプ，移送ライン等で構成する。 移送ポンプは，1号機タービン建屋に6台，1号機原子炉建屋に2台，1号機廃棄物処理建屋に2台，2号機タービン建屋に6台，2号機原子炉建屋に2台，2号機廃棄物処理建屋に6台，3号機のタービン建屋に9台，3号機原子炉建屋に4台，3号機廃棄物処理建屋に6台，4号機タービン建屋に7台，4号機原子炉建屋に6台，4号機廃棄物処理建屋に6台設置し，原子炉への注水，雨水の浸入，地下水の浸透等により1号～4号機のタービン建屋等に発生する滞留水に対して十分対処可能な設備容量を確保する。 滞留水の移送は，移送元のタービン建屋等の水位や移送先となるプロセス主建屋，高温焼却炉建屋の水位の状況に応じて，ポンプの起動台数，移送元，移送先を適宜選定して実施する。 移送ラインは，設備故障及び損傷を考慮し複数の移送ラインを準備する。また，使用環境を考慮した材料を選定し，必要に応じて遮へい，保温材等を設置するとともに，屋外敷設箇所は移送ラインの線量当量率等を監視し漏えいの有無を確認する。 （中略）	2.5 汚染水処理設備等 2.5.1 基本設計 （中略） 2.5.1.5 主要な機器 2.5.1.5.1 汚染水処理設備，貯留設備（タンク等）及び関連設備（移送配管，移送ポンプ等） （中略） (1) 滞留水移送装置 滞留水移送装置は，タービン建屋等にある滞留水を汚染水処理設備のあるプロセス主建屋（<u>滞留水一時貯留設備含む</u>），高温焼却炉建屋へ移送すること <u>または，プロセス主建屋，高温焼却炉建屋にある滞留水を滞留水一時貯留設備へ移送すること</u> を目的に，移送ポンプ，移送ライン等で構成する。 移送ポンプは，1号機タービン建屋に6台，1号機原子炉建屋に2台，1号機廃棄物処理建屋に2台，2号機タービン建屋に6台，2号機原子炉建屋に2台，2号機廃棄物処理建屋に6台，3号機のタービン建屋に9台，3号機原子炉建屋に4台，3号機廃棄物処理建屋に6台，4号機タービン建屋に7台，4号機原子炉建屋に6台，4号機廃棄物処理建屋に6台，<u>プロセス主建屋に10台，高温焼却炉建屋に2台</u> 設置し，原子炉への注水，雨水の浸入，地下水の浸透等により1号～4号機のタービン建屋等に発生する滞留水に対して十分対処可能な設備容量を確保する。 滞留水の移送は，移送元のタービン建屋等の水位や移送先となるプロセス主建屋，高温焼却炉建屋の水位，<u>滞留水一時貯留設備の運転</u> の状況に応じて，ポンプの起動台数，移送元，移送先を適宜選定して実施する。 移送ラインは，設備故障及び損傷を考慮し複数の移送ラインを準備する。また，使用環境を考慮した材料を選定し，必要に応じて遮へい，保温材等を設置するとともに，屋外敷設箇所は移送ラインの線量当量率等を監視し漏えいの有無を確認する。 （中略）	プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由																																				
2.5.2 基本仕様 2.5.2.1 主要仕様 2.5.2.1.1 汚染水処理設備，貯留設備（タンク等）及び関連設備（移送配管，移送ポンプ等） （中略） （現行記載なし）	2.5.2 基本仕様 2.5.2.1 主要仕様 2.5.2.1.1 汚染水処理設備，貯留設備（タンク等）及び関連設備（移送配管，移送ポンプ等） （中略） <u>(82) プロセス主建屋北エリアサンプ滞留水移送ポンプ（完成品）</u> <table><tr><td>台 数</td><td>2</td></tr><tr><td>容 量</td><td>13m³/h（1 台あたり）</td></tr><tr><td>揚 程</td><td>54m</td></tr></table> <u>(83) プロセス主建屋北東エリアサンプ滞留水移送ポンプ（完成品）</u> <table><tr><td>台 数</td><td>2</td></tr><tr><td>容 量</td><td>13m³/h（1 台あたり）</td></tr><tr><td>揚 程</td><td>54m</td></tr></table> <u>(84) プロセス主建屋北西エリアサンプ滞留水移送ポンプ（完成品）</u> <table><tr><td>台 数</td><td>2</td></tr><tr><td>容 量</td><td>13m³/h（1 台あたり）</td></tr><tr><td>揚 程</td><td>54m</td></tr></table> <u>(85) プロセス主建屋南エリアサンプ滞留水移送ポンプ（完成品）</u> <table><tr><td>台 数</td><td>2</td></tr><tr><td>容 量</td><td>13m³/h（1 台あたり）</td></tr><tr><td>揚 程</td><td>54m</td></tr></table> <u>(86) プロセス主建屋西エリアサンプ滞留水移送ポンプ（完成品）</u> <table><tr><td>台 数</td><td>2</td></tr><tr><td>容 量</td><td>13m³/h（1 台あたり）</td></tr><tr><td>揚 程</td><td>54m</td></tr></table> <u>(87) 高温焼却炉建屋北西エリアサンプ滞留水移送ポンプ（完成品）</u> <table><tr><td>台 数</td><td>2</td></tr><tr><td>容 量</td><td>13m³/h（1 台あたり）</td></tr><tr><td>揚 程</td><td>54m</td></tr></table>	台 数	2	容 量	13m³/h（1 台あたり）	揚 程	54m	台 数	2	容 量	13m³/h（1 台あたり）	揚 程	54m	台 数	2	容 量	13m³/h（1 台あたり）	揚 程	54m	台 数	2	容 量	13m³/h（1 台あたり）	揚 程	54m	台 数	2	容 量	13m³/h（1 台あたり）	揚 程	54m	台 数	2	容 量	13m³/h（1 台あたり）	揚 程	54m	プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加
台 数	2																																					
容 量	13m³/h（1 台あたり）																																					
揚 程	54m																																					
台 数	2																																					
容 量	13m³/h（1 台あたり）																																					
揚 程	54m																																					
台 数	2																																					
容 量	13m³/h（1 台あたり）																																					
揚 程	54m																																					
台 数	2																																					
容 量	13m³/h（1 台あたり）																																					
揚 程	54m																																					
台 数	2																																					
容 量	13m³/h（1 台あたり）																																					
揚 程	54m																																					
台 数	2																																					
容 量	13m³/h（1 台あたり）																																					
揚 程	54m																																					

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（4 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（5 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（6 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（7 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（8 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（9 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 0 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 1 / <u>3 1</u> ） （中略）	表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（4 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（5 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（6 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（7 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（8 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（9 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 0 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 1 / <u>3 4</u> ） （中略）	記載の適正化

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 2／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 3／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 4／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 5／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 6／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 7／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 8／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 9／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 0／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 1／ <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 2／ <u>3 1</u> ） （中略）	表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 2／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 3／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 4／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 5／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 6／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 7／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 8／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（1 9／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 0／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 1／ <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 2／ <u>3 4</u> ） （中略）	記載の適正化

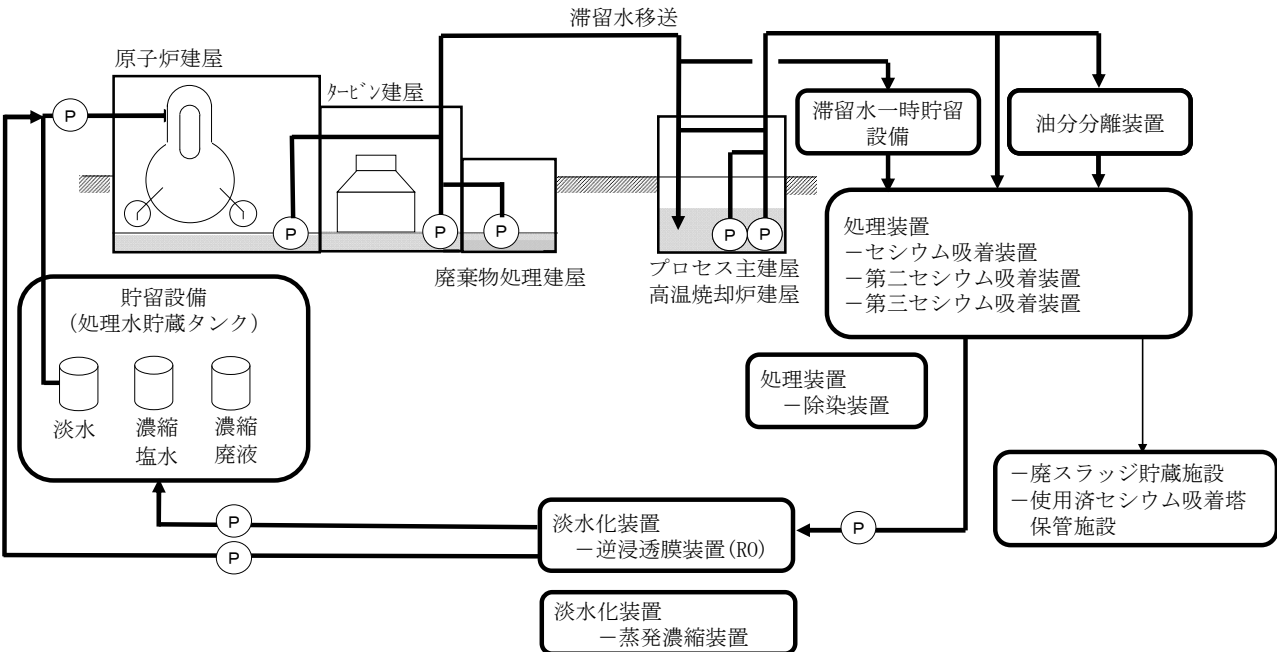
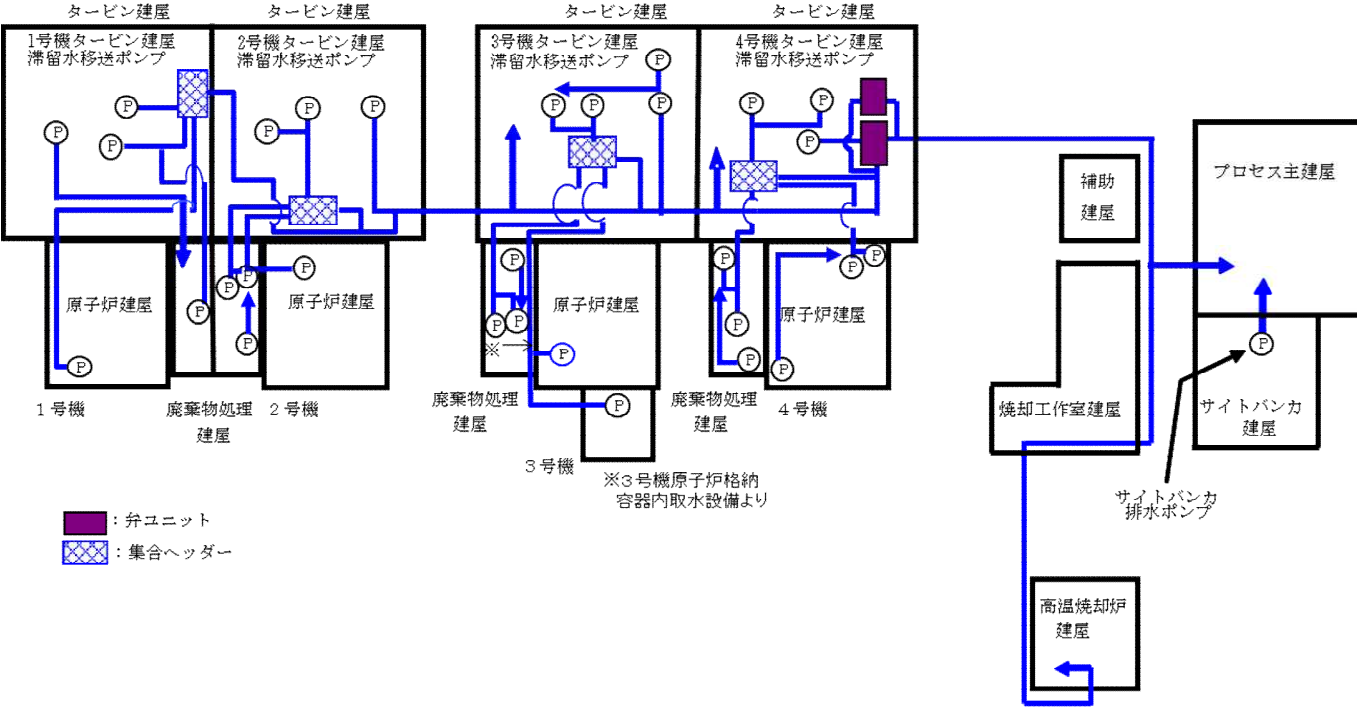
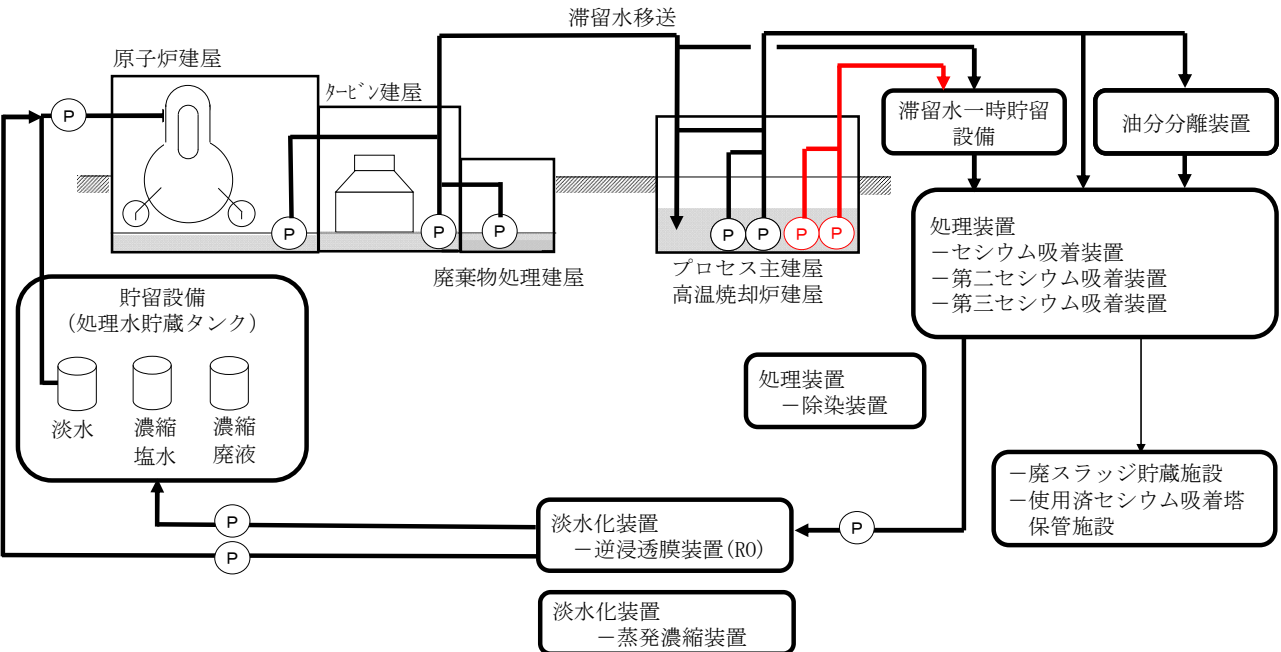
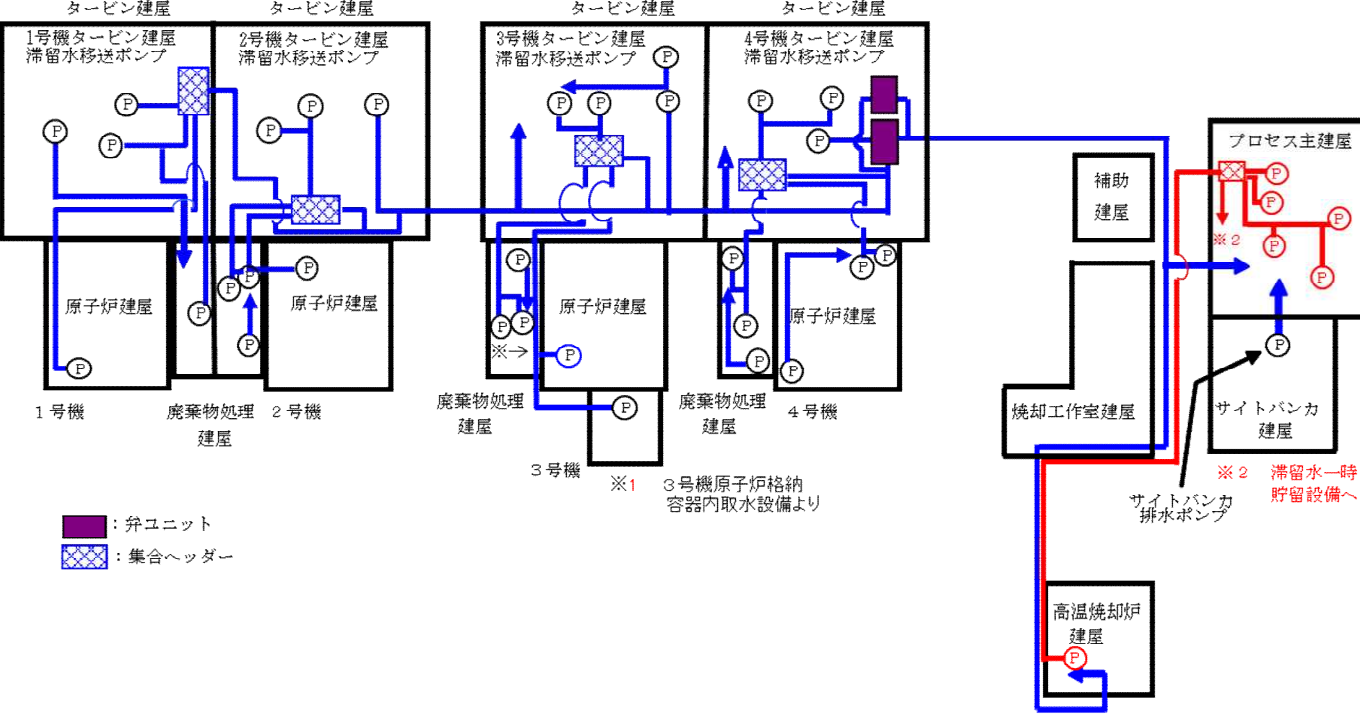
変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 3 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 4 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 5 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 6 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 7 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 8 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 9 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 0 / <u>3 1</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 1 / <u>3 1</u> ） （中略）	表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 3 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 4 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 5 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 6 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 7 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 8 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（2 9 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 0 / <u>3 4</u> ） （中略） 表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 1 / <u>3 4</u> ） （中略）	記載の適正化

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由																																																									
(現行記載なし)	表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 2 / 3 4） <table><tr><th>名称</th><th colspan="2">仕様</th></tr><tr><td rowspan="4">プロセス主建屋北エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリ塩化ビニル</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(鋼管)</td><td>呼び径／厚さ</td><td>50A/Sch. 80</td></tr><tr><td>材質</td><td>STPT410</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(ポリエチレン管)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当，80A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリエチレン</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">プロセス主建屋北東エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリ塩化ビニル</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(鋼管)</td><td>呼び径／厚さ</td><td>50A/Sch. 80</td></tr><tr><td>材質</td><td>STPT410</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(ポリエチレン管)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当，80A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリエチレン</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr></table>	名称	仕様		プロセス主建屋北エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当	材質	ポリ塩化ビニル	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80	材質	STPT410	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当	材質	ポリエチレン	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	プロセス主建屋北東エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当	材質	ポリ塩化ビニル	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80	材質	STPT410	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当	材質	ポリエチレン	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加
名称	仕様																																																										
プロセス主建屋北エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当																																																									
	材質	ポリ塩化ビニル																																																									
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80																																																									
	材質	STPT410																																																									
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当																																																									
	材質	ポリエチレン																																																									
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
プロセス主建屋北東エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当																																																									
	材質	ポリ塩化ビニル																																																									
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80																																																									
	材質	STPT410																																																									
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当																																																									
	材質	ポリエチレン																																																									
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由																																																									
(現行記載なし)	表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 3 / 3 4） <table><tr><th>名称</th><th colspan="2">仕様</th></tr><tr><td rowspan="4">プロセス主建屋北西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリ塩化ビニル</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0.96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(鋼管)</td><td>呼び径／厚さ</td><td>50A/Sch. 80</td></tr><tr><td>材質</td><td>STPT410</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0.96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(ポリエチレン管)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当, 80A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリエチレン</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0.96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">プロセス主建屋南エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリ塩化ビニル</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0.96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(鋼管)</td><td>呼び径／厚さ</td><td>50A/Sch. 80</td></tr><tr><td>材質</td><td>STPT410</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0.96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(ポリエチレン管)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当, 80A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリエチレン</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0.96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr></table>	名称	仕様		プロセス主建屋北西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当	材質	ポリ塩化ビニル	最高使用圧力	0.96MPa	最高使用温度	40℃	(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80	材質	STPT410	最高使用圧力	0.96MPa	最高使用温度	40℃	(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当, 80A 相当	材質	ポリエチレン	最高使用圧力	0.96MPa	最高使用温度	40℃	プロセス主建屋南エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当	材質	ポリ塩化ビニル	最高使用圧力	0.96MPa	最高使用温度	40℃	(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80	材質	STPT410	最高使用圧力	0.96MPa	最高使用温度	40℃	(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当, 80A 相当	材質	ポリエチレン	最高使用圧力	0.96MPa	最高使用温度	40℃	プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加
名称	仕様																																																										
プロセス主建屋北西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当																																																									
	材質	ポリ塩化ビニル																																																									
	最高使用圧力	0.96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80																																																									
	材質	STPT410																																																									
	最高使用圧力	0.96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当, 80A 相当																																																									
	材質	ポリエチレン																																																									
	最高使用圧力	0.96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
プロセス主建屋南エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当																																																									
	材質	ポリ塩化ビニル																																																									
	最高使用圧力	0.96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80																																																									
	材質	STPT410																																																									
	最高使用圧力	0.96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									
(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当, 80A 相当																																																									
	材質	ポリエチレン																																																									
	最高使用圧力	0.96MPa																																																									
	最高使用温度	40℃																																																									

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由																																																																		
(現行記載なし)	表 2. 5 - 1 汚染水処理設備等の主要配管仕様（3 4 / 3 4） <table><tr><th>名称</th><th colspan="2">仕様</th></tr><tr><td rowspan="4">プロセス主建屋西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリ塩化ビニル</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(鋼管)</td><td>呼び径／厚さ</td><td>50A/Sch. 80</td></tr><tr><td>材質</td><td>STPT410</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(ポリエチレン管)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当，80A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリエチレン</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">高温焼却炉建屋北西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリ塩化ビニル</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(鋼管)</td><td>呼び径／厚さ</td><td>50A/Sch. 80</td></tr><tr><td>材質</td><td>STPT410</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">(ポリエチレン管)</td><td>呼び径</td><td>50A 相当，80A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリエチレン</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr><tr><td rowspan="4">集合ヘッダ入口から滞留水一時貯留設備入口ヘッダスキッド入口まで (ポリエチレン管)</td><td>呼び径</td><td>80A 相当，100A 相当</td></tr><tr><td>材質</td><td>ポリエチレン</td></tr><tr><td>最高使用圧力</td><td>0. 96MPa</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td>40℃</td></tr></table>	名称	仕様		プロセス主建屋西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当	材質	ポリ塩化ビニル	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80	材質	STPT410	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当	材質	ポリエチレン	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	高温焼却炉建屋北西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当	材質	ポリ塩化ビニル	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80	材質	STPT410	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当	材質	ポリエチレン	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	集合ヘッダ入口から滞留水一時貯留設備入口ヘッダスキッド入口まで (ポリエチレン管)	呼び径	80A 相当，100A 相当	材質	ポリエチレン	最高使用圧力	0. 96MPa	最高使用温度	40℃	プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加
名称	仕様																																																																			
プロセス主建屋西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当																																																																		
	材質	ポリ塩化ビニル																																																																		
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																																		
	最高使用温度	40℃																																																																		
(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80																																																																		
	材質	STPT410																																																																		
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																																		
	最高使用温度	40℃																																																																		
(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当																																																																		
	材質	ポリエチレン																																																																		
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																																		
	最高使用温度	40℃																																																																		
高温焼却炉建屋北西エリアサンプから集合ヘッダ入口まで (耐圧ホース)	呼び径	50A 相当																																																																		
	材質	ポリ塩化ビニル																																																																		
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																																		
	最高使用温度	40℃																																																																		
(鋼管)	呼び径／厚さ	50A/Sch. 80																																																																		
	材質	STPT410																																																																		
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																																		
	最高使用温度	40℃																																																																		
(ポリエチレン管)	呼び径	50A 相当，80A 相当																																																																		
	材質	ポリエチレン																																																																		
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																																		
	最高使用温度	40℃																																																																		
集合ヘッダ入口から滞留水一時貯留設備入口ヘッダスキッド入口まで (ポリエチレン管)	呼び径	80A 相当，100A 相当																																																																		
	材質	ポリエチレン																																																																		
	最高使用圧力	0. 96MPa																																																																		
	最高使用温度	40℃																																																																		
(中略)	(中略)																																																																			

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
2.5.3 添付資料 (中略) (現行記載なし)	2.5.3 添付資料 (中略) <u>添付資料－29 プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置について</u>	プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置の設置に伴う設計内容を記載する添付資料の追加

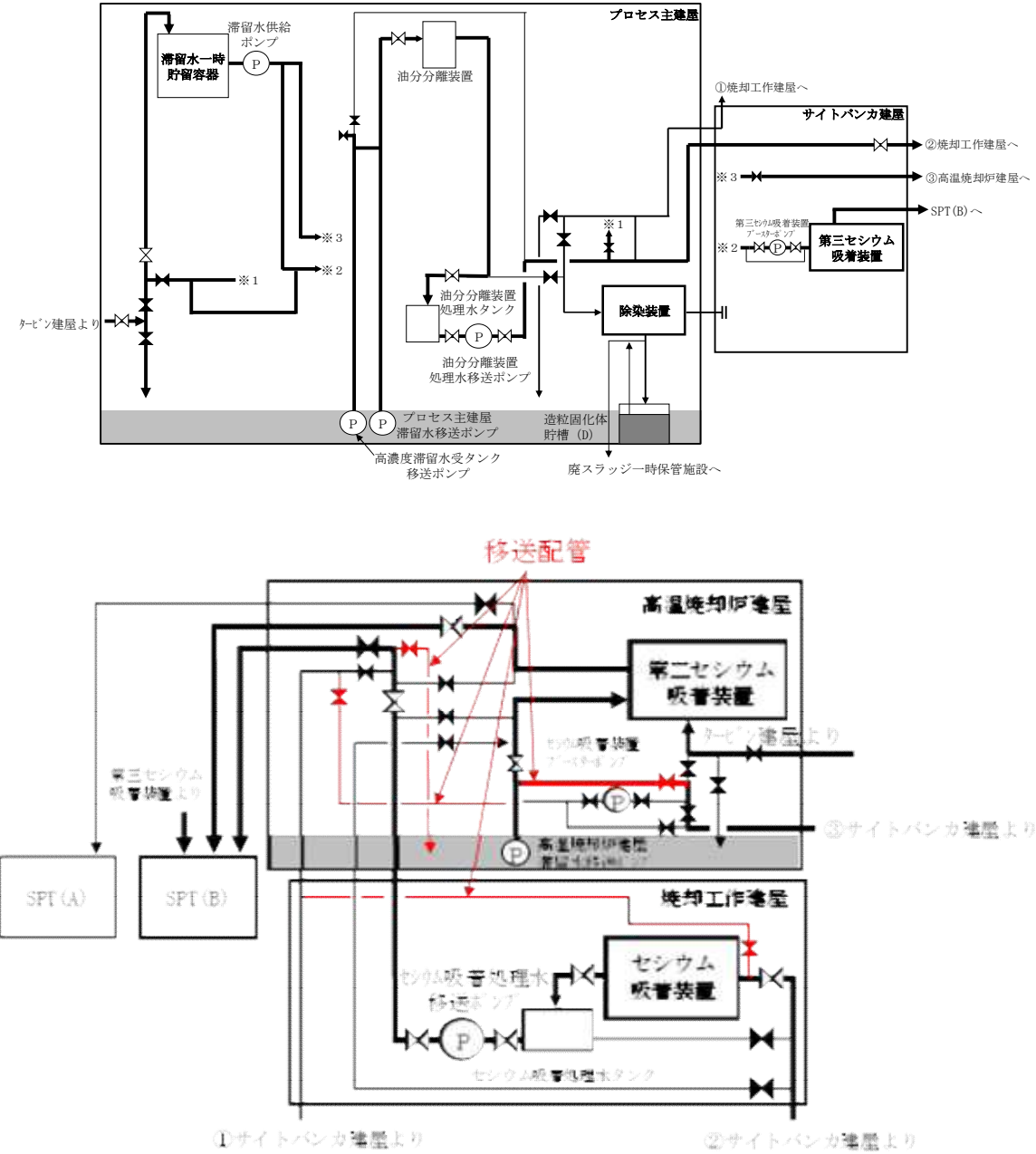
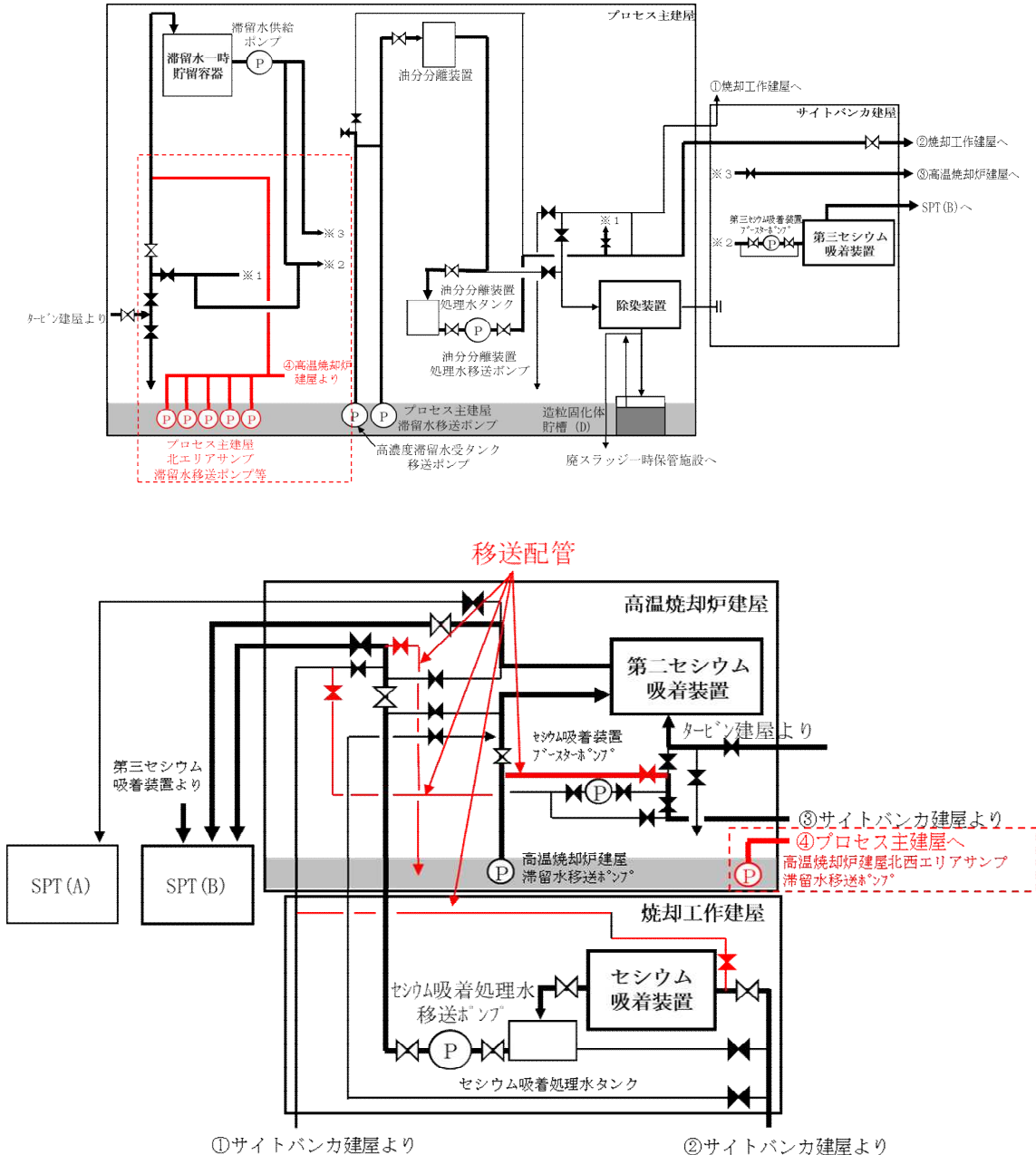
変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
(中略)  添付資料－1 (a) 系統概要 図－1 汚染水処理設備等の全体概要図（1／2） (中略)  (a) 移送装置全体系統図 図－2 滞留水移送装置の系統構成図（1／3）	(中略)  添付資料－1 (a) 系統概要 図－1 汚染水処理設備等の全体概要図（1／2） (中略)  (a) 移送装置全体系統図 図－2 滞留水移送装置の系統構成図（1／3）	プロセス主 建屋・高温焼 却炉建屋滞 留水移送装 置の設置に 伴う図の変 更

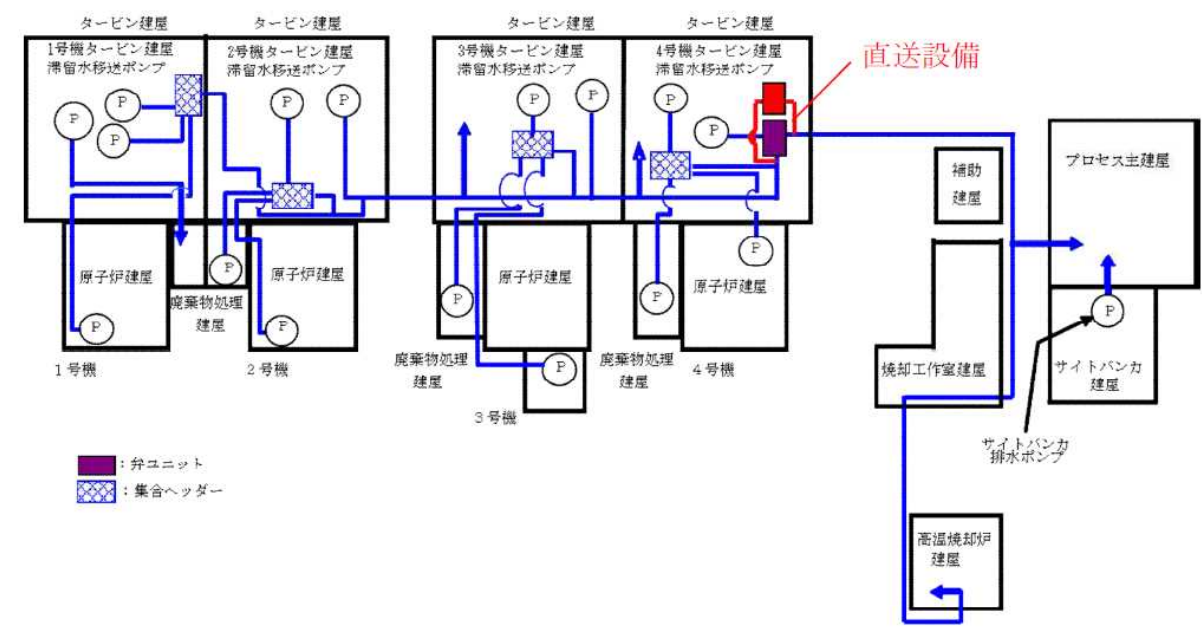
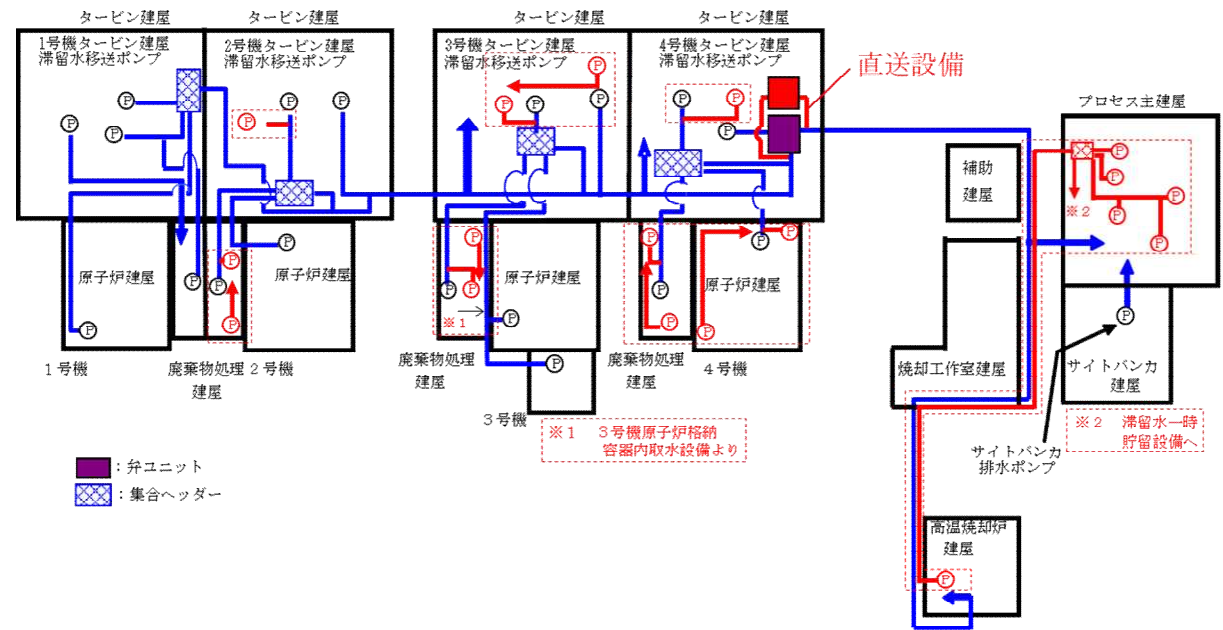
変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
(a) 移送装置全体系統図 図－2 滞留水移送装置の系統構成図（2／3）	(a) 移送装置全体系統図 図－2 滞留水移送装置の系統構成図（2／3）	プロセス主 建屋・高温焼 却炉建屋滞 留水移送装 置の設置に 伴う図の変 更

（中略）

（中略）

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
図－3 処理装置（セシウム吸着装置，第二セシウム吸着装置，第三セシウム吸着装置，除染装置）の系統構成図（1／2） 図－3 処理装置（セシウム吸着装置，第二セシウム吸着装置，第三セシウム吸着装置，除染装置）の系統構成図（2／2） （中略）	図－3 処理装置（セシウム吸着装置，第二セシウム吸着装置，第三セシウム吸着装置，除染装置）の系統構成図（1／2） 図－3 処理装置（セシウム吸着装置，第二セシウム吸着装置，第三セシウム吸着装置，除染装置）の系統構成図（2／2） （中略）	プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う図の変更

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
添付資料－16 セシウム吸着装置により高温焼却炉建屋の滞留水を浄化するために使用する配管について（中略） 2. 基本設計 2. 1 設置の目的 （中略）  図－1 処理装置（セシウム吸着装置，第二セシウム吸着装置，第三セシウム吸着装置，除染装置）の系統構成図に対する移送配管の設置範囲 （中略）	添付資料－16 セシウム吸着装置により高温焼却炉建屋の滞留水を浄化するために使用する配管について（中略） 2. 基本設計 2. 1 設置の目的 （中略）  図－1 処理装置（セシウム吸着装置，第二セシウム吸着装置，第三セシウム吸着装置，除染装置）の系統構成図に対する移送配管の設置範囲 （中略）	プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う図の変更

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
添付資料－２０ プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の地下階を介さずに滞留水を処理装置へ移送する設備について (中略) 別紙－２ 直送設備の範囲 (中略)  図－１ 直送設備の範囲図（移送装置全体系統図） (中略)	添付資料－２０ プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の地下階を介さずに滞留水を処理装置へ移送する設備について (中略) 別紙－２ 直送設備の範囲 (中略)  図－１ 直送設備の範囲図（移送装置全体系統図） (中略)	プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う図の変更および図の適正化

变更前

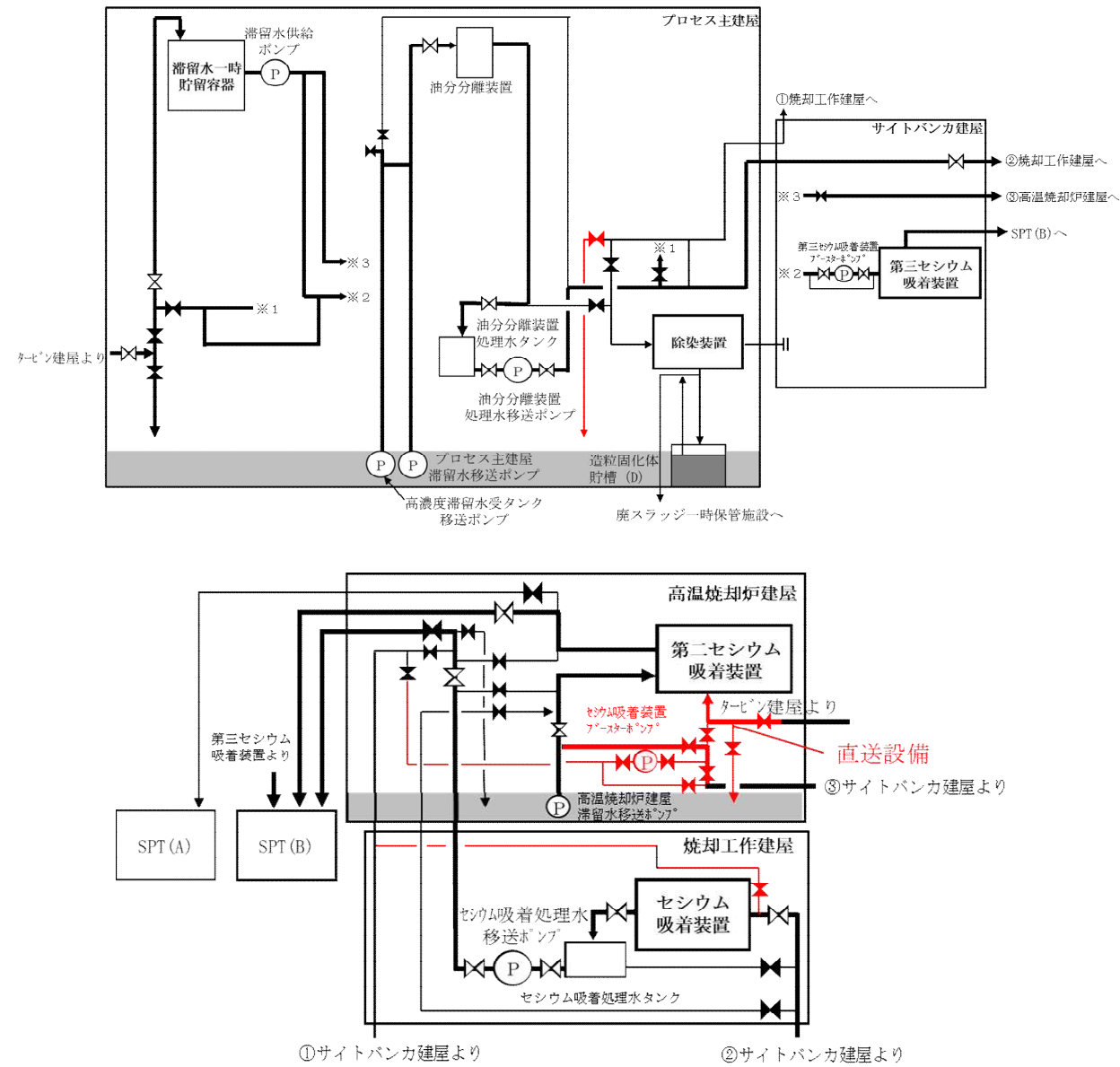


図-2 直送設備の範囲図（処理装置の系統構成図）

(中略)

変 更 後

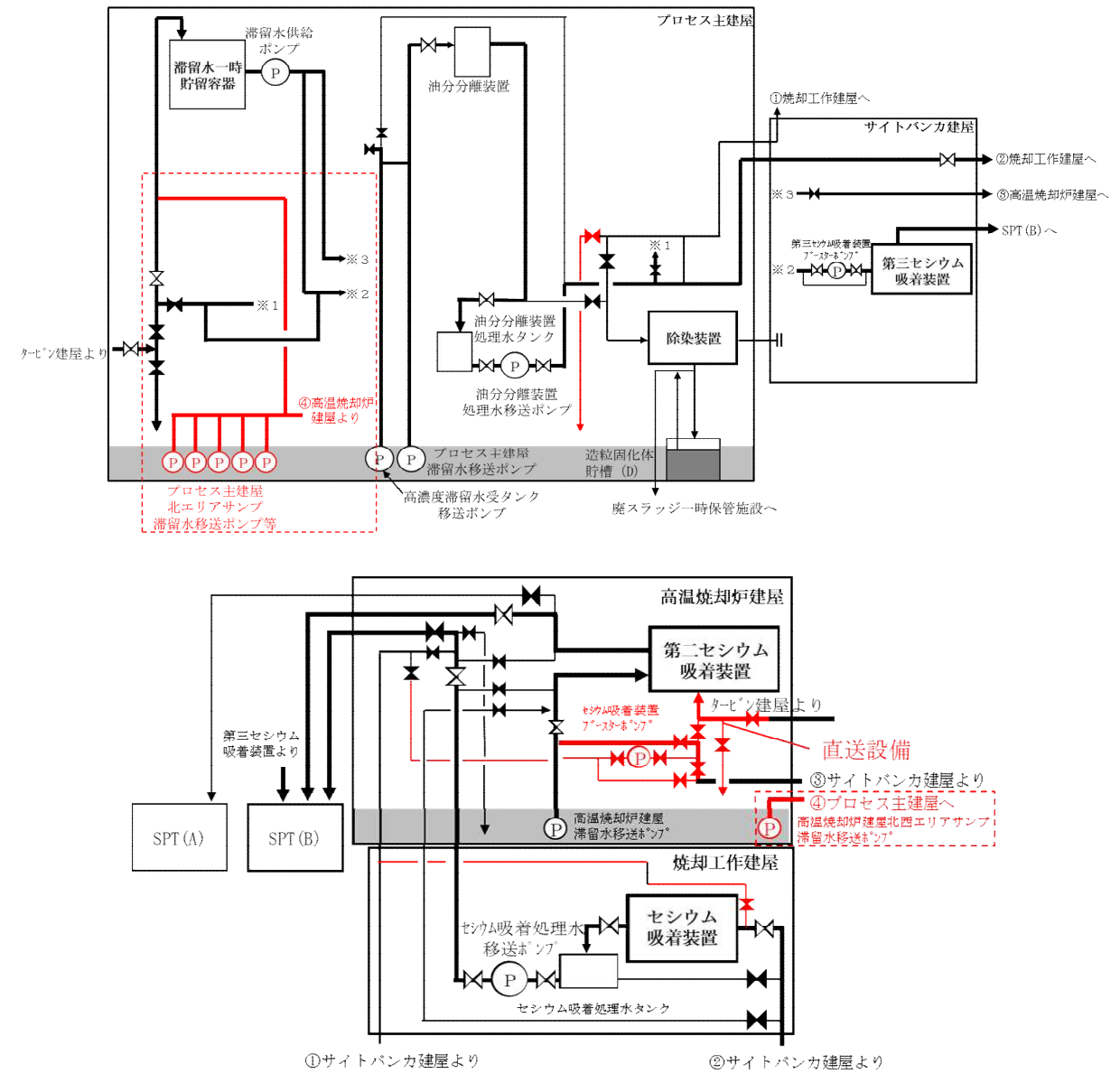


図-2 直送設備の範囲図（処理装置の系統構成図）

(中略)

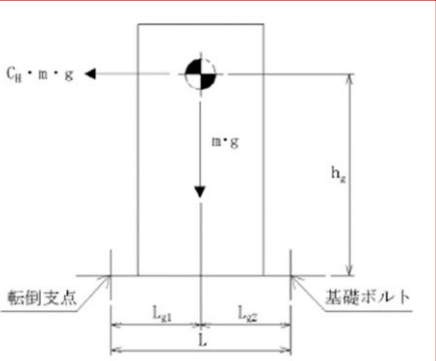
変 更 理 由

プロセス主建屋・高温焼却
炉建屋滞留水移送装置の
設置に伴う図の変更

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
添付資料－２８ 滞留水一時貯留設備について (中略) 別紙（３） 滞留水一時貯留設備の構造強度に関する説明書 (中略) 2. 強度評価 (中略) 2.2 主配管 強度評価箇所を図－２に示す。 図－２ 配管概略図（１／７） (中略)	添付資料－２８ 滞留水一時貯留設備について (中略) 別紙（３） 滞留水一時貯留設備の構造強度に関する説明書 (中略) 2. 強度評価 (中略) 2.2 主配管 強度評価箇所を図－２に示す。 図－２ 配管概略図（１／７） (中略)	プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う図の変更

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
(現行記載なし) (以上)	<u>添付資料－29</u> <u>プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置について</u> (新規記載) (以上)	プロセス主建屋，高温焼却炉建屋の滞留水移送装置の設置に伴う新規記載

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
別冊 5 汚染水処理設備等に係る補足説明 I 汚染水処理設備等の構造強度及び耐震性について (中略) 1. 汚染水処理設備，貯留設備（タンク等）及び関連設備（移送配管，移送ポンプ等） (中略)	別冊 5 汚染水処理設備等に係る補足説明 I 汚染水処理設備等の構造強度及び耐震性について (中略) 1. 汚染水処理設備，貯留設備（タンク等）及び関連設備（移送配管，移送ポンプ等） (中略)	

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
1.2. 評価結果 (中略) (現行記載なし)	1.2. 評価結果 (中略) 1.2.22. プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置 スキッド類 同構造であるスキッド類は以下の通りに分類される。(計算に用いる諸元も同様) i) <u>プロセス主建屋南エリアサンプ スキッド①,</u> <u>プロセス主建屋北西エリアサンプ スキッド①,</u> <u>プロセス主建屋北東エリアサンプ スキッド①</u> ii) <u>プロセス主建屋北エリアサンプ スキッド①,</u> <u>プロセス主建屋西エリアサンプ スキッド①,</u> <u>高温焼却炉建屋北西エリアサンプ スキッド①</u> iii) <u>プロセス主建屋南エリアサンプ スキッド②,</u> <u>高温焼却炉建屋北西エリアサンプ スキッド②</u> iv) <u>プロセス主建屋北エリアサンプ スキッド②,</u> <u>プロセス主建屋北東エリアサンプ スキッド②,</u> <u>プロセス主建屋北西エリアサンプ スキッド②,</u> <u>v) プロセス主建屋西エリアサンプ スキッド②</u> a. <u>取付ボルトの強度評価</u> <u>評価の結果, 取付ボルトの強度が確保されることを確認した (表-34-1)。</u>  <u>m : 機器重量</u> <u>(i : ■■■, ii : ■■■, iii : ■■■, iv : ■■■, v : ■■■ [kg])</u> <u>g : 重力加速度 (9.80665[m/s²])</u> <u>h_g : 据付面からの重心までの距離</u> <u>(i : ■■■, ii : ■■■, iii : ■■■, iv : ■■■, v : ■■■ [mm])</u> <u>L_{g1} : 重心と基礎ボルト間の水平方向距離</u> <u>(i : ■■■, ii : ■■■, iii : ■■■, iv : ■■■, v : ■■■ [mm])</u> <u>L : 基礎ボルト間の水平方向距離</u> <u>(i : ■■■, ii : ■■■, iii : ■■■, iv : ■■■, v : ■■■ [mm])</u> <u>n_f : 引張力の作用する基礎ボルトの評価本数</u> <u>(i : ■■■, ii : ■■■, iii : ■■■, iv : ■■■, v : ■■■)</u> <u>n : せん断力の作用する基礎ボルトの評価本数</u> <u>(i : ■■■, ii : ■■■, iii : ■■■, iv : ■■■, v : ■■■)</u> <u>A_b : 基礎ボルトの軸断面積</u> <u>(i : ■■■, ii : ■■■, iii : ■■■, iv : ■■■, v : ■■■ [mm²])</u> <u>C_H : 水平方向設計震度</u> <u>(プロセス主建屋:0.57, 高温焼却炉建屋:0.61)</u> <u>C_v : 鉛直方向設計震度</u> <u>(プロセス主建屋:0.44, 高温焼却炉建屋:0.47)</u>	プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由																																								
(現行記載なし)	<u>基礎ボルトに作用する引張力：F_b =</u> $\frac{C_H \cdot m \cdot g \cdot h_g - (1 - C_V) \cdot m \cdot g \cdot L_{g1}}{L}$ <u>基礎ボルトの引張応力：σ_{bi} =</u> $\frac{F_b}{n_f \cdot A_b}$ <u>σ_{bi} =</u> i : 2, ii : 4(プロセス主建屋), 4(高温焼却炉建屋) iii : 9(プロセス主建屋), 9(高温焼却炉建屋), iv : 8, v : 9 [MPa] <u>基礎ボルトのせん断応力：τ_{bi} =</u> $\frac{C_H \cdot m \cdot g}{n \cdot A_b}$ <u>τ_{bi} =</u> i : 1, ii : 2(プロセス主建屋), 2(高温焼却炉建屋), iii : 3(プロセス主建屋), 4(高温焼却炉建屋), iv : 2, v : 3 [MPa] <u>ボルトの許容引張応力：</u> <u>$f_{tsi} = 1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b$ かつ, $\leq f_{to} = F_i/2 \cdot 1.5$</u> <u>$F_i = 235$[MPa] (SS400, 設計温度 40℃より)</u> <u>$f_{ts} =$ i : 244, ii : 244, iii : 243, iv : 243, v : 242 [MPa]</u> <u>$f_{to} = 235/2 \cdot 1.5 = 176$[MPa]</u> <u>以上より, $f_{tsi} = 176$[MPa]</u> <u>ボルトの許容せん断応力：</u> <u>$f_{sbi} = F_i/\sqrt{3}$</u> <u>$f_{sbl} = 135$[MPa]</u> 表－3 4－1 スキッド類の耐震性評価結果 <table><tr><th>名称</th><th>部材</th><th>材料</th><th>水平震度</th><th>鉛直震度</th><th>応力</th><th>算出応力</th><th>許容応力</th></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>南エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl} = 2$</u></td><td><u>$f_{tsl} = 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl} = 1$</u></td><td><u>$f_{sbl} = 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>南エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl} = 9$</u></td><td><u>$f_{tsl} = 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl} = 3$</u></td><td><u>$f_{sbl} = 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl} = 4$</u></td><td><u>$f_{tsl} = 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl} = 2$</u></td><td><u>$f_{sbl} = 135$</u></td></tr></table> プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加	名称	部材	材料	水平震度	鉛直震度	応力	算出応力	許容応力	<u>プロセス主建屋</u> <u>南エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl} = 2$</u>	<u>$f_{tsl} = 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl} = 1$</u>	<u>$f_{sbl} = 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>南エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl} = 9$</u>	<u>$f_{tsl} = 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl} = 3$</u>	<u>$f_{sbl} = 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl} = 4$</u>	<u>$f_{tsl} = 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl} = 2$</u>	<u>$f_{sbl} = 135$</u>
名称	部材	材料	水平震度	鉛直震度	応力	算出応力	許容応力																																			
<u>プロセス主建屋</u> <u>南エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl} = 2$</u>	<u>$f_{tsl} = 176$</u>																																			
					<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl} = 1$</u>	<u>$f_{sbl} = 135$</u>																																			
<u>プロセス主建屋</u> <u>南エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl} = 9$</u>	<u>$f_{tsl} = 176$</u>																																			
					<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl} = 3$</u>	<u>$f_{sbl} = 135$</u>																																			
<u>プロセス主建屋</u> <u>西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl} = 4$</u>	<u>$f_{tsl} = 176$</u>																																			
					<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl} = 2$</u>	<u>$f_{sbl} = 135$</u>																																			

変 更 前	変 更 後								変 更 理 由																																																																																																											
(現行記載なし)	<table><tr><th>名称</th><th>部材</th><th>材料</th><th>水平震度</th><th>鉛直震度</th><th>応力</th><th>算出応力</th><th>許容応力</th></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 9$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 3$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>北エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 4$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 2$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>北エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 8$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 2$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>北東エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 2$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 1$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>北東エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 8$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 2$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 2$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 1$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>プロセス主建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.57</u></td><td rowspan="2"><u>0.44</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 8$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 2$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>高温焼却炉建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.61</u></td><td rowspan="2"><u>0.47</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 4$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 2$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>高温焼却炉建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u></td><td rowspan="2"><u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u></td><td rowspan="2"><u>SS400</u></td><td rowspan="2"><u>0.61</u></td><td rowspan="2"><u>0.47</u></td><td><u>引張</u></td><td><u>$\sigma_{bl}= 9$</u></td><td><u>$f_{tsl}= 176$</u></td></tr><tr><td><u>せん断</u></td><td><u>$\tau_{bl}= 4$</u></td><td><u>$f_{sbl}= 135$</u></td></tr></table>								名称	部材	材料	水平震度	鉛直震度	応力	算出応力	許容応力	<u>プロセス主建屋</u> <u>西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 9$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 3$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>北エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 4$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>北エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 8$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>北東エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 1$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>北東エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 8$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 1$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>プロセス主建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 8$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>高温焼却炉建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.61</u>	<u>0.47</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 4$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	<u>高温焼却炉建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.61</u>	<u>0.47</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 9$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>	<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 4$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>	プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加
	名称	部材	材料	水平震度	鉛直震度	応力	算出応力	許容応力																																																																																																												
	<u>プロセス主建屋</u> <u>西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 9$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 3$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>プロセス主建屋</u> <u>北エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 4$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>プロセス主建屋</u> <u>北エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 8$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>プロセス主建屋</u> <u>北東エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 1$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>プロセス主建屋</u> <u>北東エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 8$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>プロセス主建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 1$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>プロセス主建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.57</u>	<u>0.44</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 8$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>高温焼却炉建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド①</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.61</u>	<u>0.47</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 4$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 2$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												
	<u>高温焼却炉建屋</u> <u>北西エリアサンプ</u> <u>スキッド②</u>	<u>スキッド</u> <u>取付ボルト</u>	<u>SS400</u>	<u>0.61</u>	<u>0.47</u>	<u>引張</u>	<u>$\sigma_{bl}= 9$</u>	<u>$f_{tsl}= 176$</u>																																																																																																												
						<u>せん断</u>	<u>$\tau_{bl}= 4$</u>	<u>$f_{sbl}= 135$</u>																																																																																																												

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由																																				
(現行記載なし)	1.2.23. プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置 配管 (1)構造強度評価 a. 配管（鋼製） 設計・建設規格に基づき板厚評価を実施した。評価に用いた数値を表－３５－１に示す。評価の結果，最高使用圧力に耐えられることを確認した（表－３５－２）。 管に必要な厚さは，次に掲げる値のうち，いずれか大きい方の値とする。 ① 計算上必要な厚さ：t₁ $t_1 = \frac{P \cdot D_0}{2 \cdot S \cdot \eta + 0.8 \cdot P}$ t₁：必要厚さ（mm） P：最高使用圧力（MPa） D₀：管の外径（mm） S：許容引張応力（MPa） η：継手効率（-） 表－３５－１ 配管（鋼製）の強度評価の数値根拠 <table><tr><th>評価機器</th><th>口径</th><th>Sch</th><th>材料</th><th>温度 [°C]</th><th>P [MPa]</th><th>Do [mm]</th><th>S [MPa]</th><th>η</th><th>t₁ [mm]</th></tr><tr><td>配管①</td><td>50A</td><td>80</td><td>STPT410</td><td>40</td><td>0.96</td><td>60.5</td><td>103.0</td><td>1.00</td><td>0.29</td></tr></table> ② 規格上必要な最小厚さ：t₂ 管台の外径に応じて，JSME 規格 表 PPD-3411-1 より求めた管の厚さとする。 表－３５－２ 配管（鋼製）の評価結果 <table><tr><th>評価機器</th><th>口径</th><th>Sch</th><th>材料</th><th>最高使用圧力[MPa]</th><th>最高使用温度[°C]</th><th>必要厚さ [mm]</th><th>最小厚さ [mm]</th></tr><tr><td>配管①</td><td>50A</td><td>80</td><td>STPT410</td><td>0.96</td><td>40</td><td>2.4</td><td>4.81</td></tr></table>	評価機器	口径	Sch	材料	温度 [°C]	P [MPa]	Do [mm]	S [MPa]	η	t ₁ [mm]	配管①	50A	80	STPT410	40	0.96	60.5	103.0	1.00	0.29	評価機器	口径	Sch	材料	最高使用圧力[MPa]	最高使用温度[°C]	必要厚さ [mm]	最小厚さ [mm]	配管①	50A	80	STPT410	0.96	40	2.4	4.81	プロセス主建屋・高温焼却炉建屋滞留水移送装置の設置に伴う記載の追加
評価機器	口径	Sch	材料	温度 [°C]	P [MPa]	Do [mm]	S [MPa]	η	t ₁ [mm]																													
配管①	50A	80	STPT410	40	0.96	60.5	103.0	1.00	0.29																													
評価機器	口径	Sch	材料	最高使用圧力[MPa]	最高使用温度[°C]	必要厚さ [mm]	最小厚さ [mm]																															
配管①	50A	80	STPT410	0.96	40	2.4	4.81																															

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
2. 使用済セシウム吸着塔保管施設及び廃スラッジ貯蔵施設 （中略） 2. 2. 評価結果 2. 2. 1. 使用済セシウム吸着塔仮保管施設 （中略） (2)耐震性評価 a. 転倒評価 地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価に使用した数値を表－<u>3 4</u>－1に示す。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－<u>3 4</u>－2）。 （中略） 表－<u>3 4</u>－1 使用済セシウム吸着塔仮保管施設の転倒評価数値根拠 （中略） b. 滑動評価 地震時の水平荷重によるすべり力と接地面の摩擦力を比較することにより、滑動評価を実施した。評価の結果、地震時の水平荷重によるすべり力は接地面の摩擦力より小さいことから、滑動しないことを確認した（表－<u>3 4</u>－2）。 （中略） 表－<u>3 4</u>－2 使用済セシウム吸着塔仮保管施設耐震評価結果 （中略） 2. 2. 2. 使用済セシウム吸着塔一時保管施設 （中略） (2)耐震性評価 a. 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）の連結ボルト強度評価について ボックスカルバートは、連結ボルトで相互に連結して転倒し難い構造としている。連結ボルトのうち、最も負荷条件の厳しいものについて引抜力を評価した結果、ボルトの許容引張力（許容値）以下となることを確認した。なお、本施設はBクラス相当の設備と位置づけられるが、参考評価として、水平震度を0.60まで拡張して健全性が維持されることを確認した（表－<u>3 5</u>－1）。 b. 吊上げシャフトの耐震性評価 吊上げシャフトについては、HICの吊下げ、保管をすることはないものの、HICをボックスカルバート内に収納する際に通過させることから、耐震評価（Bクラス相当）を実施した。評価の結果、吊上げシャフト架台のアンカーボルトのうち、最も負荷条件が厳しいボルトについても許容値を下回ることを確認した（表－<u>3 5</u>－2）。	2. 使用済セシウム吸着塔保管施設及び廃スラッジ貯蔵施設 （中略） 2. 2. 評価結果 2. 2. 1. 使用済セシウム吸着塔仮保管施設 （中略） (2)耐震性評価 a. 転倒評価 地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価に使用した数値を表－<u>3 6</u>－1に示す。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－<u>3 6</u>－2）。 （中略） 表－<u>3 6</u>－1 使用済セシウム吸着塔仮保管施設の転倒評価数値根拠 （中略） b. 滑動評価 地震時の水平荷重によるすべり力と接地面の摩擦力を比較することにより、滑動評価を実施した。評価の結果、地震時の水平荷重によるすべり力は接地面の摩擦力より小さいことから、滑動しないことを確認した（表－<u>3 6</u>－2）。 （中略） 表－<u>3 6</u>－2 使用済セシウム吸着塔仮保管施設耐震評価結果 （中略） 2. 2. 2. 使用済セシウム吸着塔一時保管施設 （中略） (2)耐震性評価 a. 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）の連結ボルト強度評価について ボックスカルバートは、連結ボルトで相互に連結して転倒し難い構造としている。連結ボルトのうち、最も負荷条件の厳しいものについて引抜力を評価した結果、ボルトの許容引張力（許容値）以下となることを確認した。なお、本施設はBクラス相当の設備と位置づけられるが、参考評価として、水平震度を0.60まで拡張して健全性が維持されることを確認した（表－<u>3 7</u>－1）。 b. 吊上げシャフトの耐震性評価 吊上げシャフトについては、HICの吊下げ、保管をすることはないものの、HICをボックスカルバート内に収納する際に通過させることから、耐震評価（Bクラス相当）を実施した。評価の結果、吊上げシャフト架台のアンカーボルトのうち、最も負荷条件が厳しいボルトについても許容値を下回ることを確認した（表－<u>3 7</u>－2）。	記載の適正化

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
また、吊上げシャフト内の緩衝器カバーについても、地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを比較した結果、地震による転倒モーメントは、自重による安定モーメントより小さくなることから転倒しないことを確認した。なお、参考評価として水平震度を 0.6 まで拡張した場合においても問題ないことを確認した（表－3.5－3）。 c. クレーンの耐震評価 第三施設クレーンに対し、地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価の結果、地震による転倒モーメントは、自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した。なお、参考評価として、耐震 S クラス相当の水平震度（0.6）に対して健全性が確認されることを確認した（表－3.5－4）。 表－3.5－1 連結ボルトの強度評価（1／3） （中略） 表－3.5－1 連結ボルトの強度評価（2／3） （中略） 表－3.5－1 連結ボルトの強度評価（3／3） （中略） 表－3.5－2 吊上げシャフト架台アンカーボルトの評価結果 （中略） 表－3.5－3 吊上げシャフト内緩衝器カバーの評価結果 （中略） 表－3.5－4 第三施設クレーンの評価結果 （中略） d. 転倒評価 （中略） 評価に用いた数値を表－3.5－5 に示す。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－3.5－6）。 （中略） 表－3.5－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（1／5） （中略） 表－3.5－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（2／5）	また、吊上げシャフト内の緩衝器カバーについても、地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを比較した結果、地震による転倒モーメントは、自重による安定モーメントより小さくなることから転倒しないことを確認した。なお、参考評価として水平震度を 0.6 まで拡張した場合においても問題ないことを確認した（表－3.7－3）。 c. クレーンの耐震評価 第三施設クレーンに対し、地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価の結果、地震による転倒モーメントは、自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した。なお、参考評価として、耐震 S クラス相当の水平震度（0.6）に対して健全性が確認されることを確認した（表－3.7－4）。 表－3.7－1 連結ボルトの強度評価（1／3） （中略） 表－3.7－1 連結ボルトの強度評価（2／3） （中略） 表－3.7－1 連結ボルトの強度評価（3／3） （中略） 表－3.7－2 吊上げシャフト架台アンカーボルトの評価結果 （中略） 表－3.7－3 吊上げシャフト内緩衝器カバーの評価結果 （中略） 表－3.7－4 第三施設クレーンの評価結果 （中略） d. 転倒評価 （中略） 評価に用いた数値を表－3.7－5 に示す。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－3.7－6）。 （中略） 表－3.7－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（1／5） （中略） 表－3.7－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（2／5）	記載の適正化

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
(中略) 表－<u>3.5</u>－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（3／5） (中略) 表－<u>3.5</u>－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（4／5） (中略) 表－<u>3.5</u>－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（5／5） (中略) e. 滑動評価 セシウム吸着装置吸着塔，モバイル式処理装置吸着塔，サブドレン他浄化装置吸着塔，高性能多核種除去設備検証試験装置吸着塔，モバイル型ストロンチウム除去装置フィルタ・吸着塔，多核種除去設備高性能容器（第三施設）については，ボックスカルバートとあわせ地震時の水平荷重によるすべり力と接地面の摩擦力を比較することにより，滑動評価を実施した。評価の結果，地震時の水平荷重によるすべり力は接地面の摩擦力より小さいことから，滑動しないことを確認した（表－<u>3.6</u>）。なお，水平震度を 0.60 まで拡張した評価では，地震時の水平荷重によるすべり力が設置面の摩擦力より大きくなり，滑動する結果となったことから，別途すべり量の評価を実施した。 (中略) 第二セシウム吸着装置吸着塔，第三セシウム吸着装置吸着塔，多核種除去設備処理カラム，高性能多核種除去設備吸着塔，R0 濃縮水処理設備吸着塔及びサブドレン他浄化装置吸着塔については，それらを格納する架台が設置床に基礎ボルトで固定されていることから基礎ボルトに作用するせん断荷重と許容せん断荷重を比較することより滑動評価を実施した。基礎ボルトの許容せん断荷重は「日本建築学会：各種合成構造設計指針・同解説，鉄骨鉄筋コンクリート構造計算基準・同解説」に基づき次式を用いた。評価の結果，基礎ボルトの破断による滑動が生じないことを確認した（表－<u>3.5</u>－6）。 $q = mg(C_H - \alpha) \div n$ $= g(m_v + m_b)(C_H - \alpha) \div n$ $q_a = 0.75 \cdot \phi_{S3} \left(0.5 \cdot {}_{SC} a \cdot \sqrt{F_c \cdot E_c} \right)$ q ： 基礎ボルト一本に作用するせん断荷重 qa ： 基礎ボルト一本当たりの許容せん断荷重 CH ： 水平方向設計震度 (0.36, 0.60) m ： 機器重量 (表－<u>3.5</u>－5 参照) g ： 重力加速度 (9.80665 m/s2) α ： 機器と床版の摩擦係数 (0.4) n ： 機器あたりの基礎ボルト本数※ φ S3 ： 短期荷重に対する低減係数 (0.6) SCa ： 基礎ボルトの定着部の断面積※ Fc ： コンクリート設計基準強度 ( N/mm2) Ec ： コンクリートのヤング率 ( N/mm2) (中略)	(中略) 表－<u>3.7</u>－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（3／5） (中略) 表－<u>3.7</u>－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（4／5） (中略) 表－<u>3.7</u>－5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価数値根拠（5／5） (中略) e. 滑動評価 セシウム吸着装置吸着塔，モバイル式処理装置吸着塔，サブドレン他浄化装置吸着塔，高性能多核種除去設備検証試験装置吸着塔，モバイル型ストロンチウム除去装置フィルタ・吸着塔，多核種除去設備高性能容器（第三施設）については，ボックスカルバートとあわせ地震時の水平荷重によるすべり力と接地面の摩擦力を比較することにより，滑動評価を実施した。評価の結果，地震時の水平荷重によるすべり力は接地面の摩擦力より小さいことから，滑動しないことを確認した（表－<u>3.8</u>）。なお，水平震度を 0.60 まで拡張した評価では，地震時の水平荷重によるすべり力が設置面の摩擦力より大きくなり，滑動する結果となったことから，別途すべり量の評価を実施した。 (中略) 第二セシウム吸着装置吸着塔，第三セシウム吸着装置吸着塔，多核種除去設備処理カラム，高性能多核種除去設備吸着塔，R0 濃縮水処理設備吸着塔及びサブドレン他浄化装置吸着塔については，それらを格納する架台が設置床に基礎ボルトで固定されていることから基礎ボルトに作用するせん断荷重と許容せん断荷重を比較することより滑動評価を実施した。基礎ボルトの許容せん断荷重は「日本建築学会：各種合成構造設計指針・同解説，鉄骨鉄筋コンクリート構造計算基準・同解説」に基づき次式を用いた。評価の結果，基礎ボルトの破断による滑動が生じないことを確認した（表－<u>3.7</u>－6）。 $q = mg(C_H - \alpha) \div n$ $= g(m_v + m_b)(C_H - \alpha) \div n$ $q_a = 0.75 \cdot \phi_{S3} \left(0.5 \cdot {}_{SC} a \cdot \sqrt{F_c \cdot E_c} \right)$ q ： 基礎ボルト一本に作用するせん断荷重 qa ： 基礎ボルト一本当たりの許容せん断荷重 CH ： 水平方向設計震度 (0.36, 0.60) m ： 機器重量 (表－<u>3.7</u>－5 参照) g ： 重力加速度 (9.80665 m/s2) α ： 機器と床版の摩擦係数 (0.4) n ： 機器あたりの基礎ボルト本数※ φ S3 ： 短期荷重に対する低減係数 (0.6) SCa ： 基礎ボルトの定着部の断面積※ Fc ： コンクリート設計基準強度 ( N/mm2) Ec ： コンクリートのヤング率 ( N/mm2) (中略)	記載の適正化

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
f. すべり量評価 すべり量は、吸着塔とボックスカルバートについて、地震応答加速度時刻歴をもとに設置床に対する累積変位量として算出した。評価の結果すべり量がボックスカルバート間の許容値を超えないことを確認した（表－3.6）。 表－3.5－6 使用済セシウム吸着塔一時保管施設耐震評価結果（1／3） （中略） 表－3.5－6 使用済セシウム吸着塔一時保管施設耐震評価結果（2／3） （中略） 表－3.5－6 使用済セシウム吸着塔一時保管施設耐震評価結果（3／3） （中略） 表－3.6 使用済セシウム吸着塔一時保管施設すべり量評価結果 （中略） g. 第三施設の耐震 S クラスの評価について 本施設を構成するボックスカルバートについて、耐震 S クラスにおいても健全性が維持されることを確認した。 ① 連結ボルトの強度評価 ボックスカルバートは、連結ボルトで相互に連結して転倒し難い構造としている。連結ボルトのうち、最も負荷条件の厳しいものについて引抜力を評価した結果、ボルトの許容引張力（許容値）以下となることを確認した（表－3.7－1）。 ② 転倒評価 4 列× 9 行のボックスカルバート群及びその中に格納可能な HIC 9.6 基※に対して、地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－3.7－2）。 ※遮へい土砂を充填するボックスカルバート 4 箇所を除いた 3.2 箇所への格納量 ③ 吊上げシャフトの耐震性評価 吊上げシャフトについては、HIC の吊下げ、保管をすることはないものの、HIC をボックスカルバート内に収納する際に通過させることから、参考までに耐震評価を実施した。評価の結果、吊上げシャフト架台・吊上げシャフト内緩衝機カバーのアンカーボルトについて許容値を下回ることを確認した（表－3.7－3）。なお、吊上げシャフト架台アンカーボルトについては、表－3.5－2 の水平震度 (0.6) の算出時に保守的に鉛直震度を考慮しているので値は変わらない。 ④ クレーンの耐震性評価 第三施設クレーンに対し、参考までに地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価の結果、地震による転倒モーメントは、自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－3.7－4）。 表－3.7－1 連結ボルトの強度評価（1／2） （中略）	f. すべり量評価 すべり量は、吸着塔とボックスカルバートについて、地震応答加速度時刻歴をもとに設置床に対する累積変位量として算出した。評価の結果すべり量がボックスカルバート間の許容値を超えないことを確認した（表－3.8）。 表－3.7－6 使用済セシウム吸着塔一時保管施設耐震評価結果（1／3） （中略） 表－3.7－6 使用済セシウム吸着塔一時保管施設耐震評価結果（2／3） （中略） 表－3.7－6 使用済セシウム吸着塔一時保管施設耐震評価結果（3／3） （中略） 表－3.8 使用済セシウム吸着塔一時保管施設すべり量評価結果 （中略） g. 第三施設の耐震 S クラスの評価について 本施設を構成するボックスカルバートについて、耐震 S クラスにおいても健全性が維持されることを確認した。 ① 連結ボルトの強度評価 ボックスカルバートは、連結ボルトで相互に連結して転倒し難い構造としている。連結ボルトのうち、最も負荷条件の厳しいものについて引抜力を評価した結果、ボルトの許容引張力（許容値）以下となることを確認した（表－3.9－1）。 ② 転倒評価 4 列× 9 行のボックスカルバート群及びその中に格納可能な HIC 9.6 基※に対して、地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－3.9－2）。 ※遮へい土砂を充填するボックスカルバート 4 箇所を除いた 3.2 箇所への格納量 ③ 吊上げシャフトの耐震性評価 吊上げシャフトについては、HIC の吊下げ、保管をすることはないものの、HIC をボックスカルバート内に収納する際に通過させることから、参考までに耐震評価を実施した。評価の結果、吊上げシャフト架台・吊上げシャフト内緩衝機カバーのアンカーボルトについて許容値を下回ることを確認した（表－3.9－3）。なお、吊上げシャフト架台アンカーボルトについては、表－3.7－2 の水平震度 (0.6) の算出時に保守的に鉛直震度を考慮しているので値は変わらない。 ④ クレーンの耐震性評価 第三施設クレーンに対し、参考までに地震による転倒モーメントと自重による安定モーメントを算出し、それらを比較することにより転倒評価を行った。評価の結果、地震による転倒モーメントは、自重による安定モーメントより小さくなることから、転倒しないことを確認した（表－3.9－4）。 表－3.9－1 連結ボルトの強度評価（1／2） （中略）	記載の適正化

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
表－<u>3 7</u>－1 連結ボルトの強度評価（2／2） （中略） 表－<u>3 7</u>－2 転倒評価 （中略） 表－<u>3 7</u>－3 吊上げシャフトの耐震性評価 （中略） 表－<u>3 7</u>－4 クレーンの耐震性評価 （中略） 2.2.3. 廃スラッジ一時保管施設 (1)構造強度評価 スラッジ貯槽について、設計・建設規格に準拠し、板厚評価を実施した（表－<u>3 8</u>）。 （中略） 表－<u>3 8</u> スラッジ貯槽板厚評価結果 （中略） (2)耐震性評価 a. 基礎ボルトの強度評価 耐震設計技術規程に準拠して評価を行った結果、基礎ボルトの強度が確保されることを確認した（表－<u>3 9</u>）。 （中略） 表－<u>3 9</u> スラッジ貯槽の基礎ボルトの強度評価結果 （中略） 2.2.4. 第二セシウム吸着装置 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設） (1)耐震性評価 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設）の耐震性評価は、機器質量及び据付面からの重心までの距離が大きいTYPE-Bにより評価する。 a. 転倒評価 （中略） 評価に用いた数値を表－<u>4 0</u>－1に示す。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さいことから、転倒しないことを確認した（表－<u>4 0</u>－2）。 （中略）	表－<u>3 9</u>－1 連結ボルトの強度評価（2／2） （中略） 表－<u>3 9</u>－2 転倒評価 （中略） 表－<u>3 9</u>－3 吊上げシャフトの耐震性評価 （中略） 表－<u>3 9</u>－4 クレーンの耐震性評価 （中略） 2.2.3. 廃スラッジ一時保管施設 (1)構造強度評価 スラッジ貯槽について、設計・建設規格に準拠し、板厚評価を実施した（表－<u>4 0</u>）。 （中略） 表－<u>4 0</u> スラッジ貯槽板厚評価結果 （中略） (2)耐震性評価 a. 基礎ボルトの強度評価 耐震設計技術規程に準拠して評価を行った結果、基礎ボルトの強度が確保されることを確認した（表－<u>4 1</u>）。 （中略） 表－<u>4 1</u> スラッジ貯槽の基礎ボルトの強度評価結果 （中略） 2.2.4. 第二セシウム吸着装置 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設） (1)耐震性評価 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設）の耐震性評価は、機器質量及び据付面からの重心までの距離が大きいTYPE-Bにより評価する。 a. 転倒評価 （中略） 評価に用いた数値を表－<u>4 2</u>－1に示す。評価の結果、地震による転倒モーメントは自重による安定モーメントより小さいことから、転倒しないことを確認した（表－<u>4 2</u>－2）。 （中略）	記載の適正化

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
表－<u>4 0</u>－ 1 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設）転倒評価結果数値根拠 （中略） b. 滑動評価 同時吸着塔を格納する架台は，基礎ボルトにて固定していることから基礎ボルトに作用するせん断荷重と許容せん断荷重を比較することより滑動評価を実施した。基礎ボルトの許容せん断荷重は「日本建築学会：各種合成構造設計指針・同解説，鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」に基づき次式を用いた。評価の結果，基礎ボルトの破断による滑動が生じないことを確認した（表－<u>4 0</u>－ 2）。 （中略） 表－<u>4 0</u>－ 2 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設）耐震評価結果 （中略） 2. 2. 5. 配管等 (1) 構造強度評価 a. 配管（鋼製） （中略） また，配管の主要仕様から設計・建設規格に基づき板厚評価を実施した。評価に用いた数値を表－<u>4 1</u>－ 1 に示す。評価の結果，最高使用圧力に耐えられることを確認した（表－<u>4 1</u>－ 2）。 （中略） 表－<u>4 1</u>－ 1 配管構造強度評価の計算根拠 （中略） 表－<u>4 1</u>－ 2 配管構造強度評価結果 （以下，省略）	表－<u>4 2</u>－ 1 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設）転倒評価結果数値根拠 （中略） b. 滑動評価 同時吸着塔を格納する架台は，基礎ボルトにて固定していることから基礎ボルトに作用するせん断荷重と許容せん断荷重を比較することより滑動評価を実施した。基礎ボルトの許容せん断荷重は「日本建築学会：各種合成構造設計指針・同解説，鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」に基づき次式を用いた。評価の結果，基礎ボルトの破断による滑動が生じないことを確認した（表－<u>4 2</u>－ 2）。 （中略） 表－<u>4 2</u>－ 2 同時吸着塔（使用済セシウム吸着塔一時保管施設）耐震評価結果 （中略） 2. 2. 5. 配管等 (1) 構造強度評価 a. 配管（鋼製） （中略） また，配管の主要仕様から設計・建設規格に基づき板厚評価を実施した。評価に用いた数値を表－<u>4 3</u>－ 1 に示す。評価の結果，最高使用圧力に耐えられることを確認した（表－<u>4 3</u>－ 2）。 （中略） 表－<u>4 3</u>－ 1 配管構造強度評価の計算根拠 （中略） 表－<u>4 3</u>－ 2 配管構造強度評価結果 （以下，省略）	記載の適正化